

2020年度中学入試

国語



出題構成と配点例

1 長文問題（説明文）（60点）

説明文一つの出題です。解く時間はじゅうぶんにありますから、本文をていねいに読み、設問に合わせた解答をする練習をしておきましょう。

2 国語の知識に関する問題（25点）

- ① 文法（ことばのきまり）
- ② ことばの知識（ことわざ・慣用句など）
- ③ 文学史に関する知識

などから出題します。

3 漢字（書き取り・読み取り）（15点）

漢字検定5～7級の範囲の漢字です。（書き取り10点、読み取り5点）
正確に書き取られているかを確認します。

傾向

出題のねらいと昨年受験者の得点傾向

1 出題のねらい

みなさんが身につけてきた基礎的な国語力をみるのがねらいです。
そのため、読解問題・国語に関する知識問題・漢字問題とも、基本的な問題がほとんどです。

2 昨年度受験者の傾向

- ・漢字・ことばの知識で点数を落としている人が多いです。
（覚えればそれだけ点数に結びつく部分です。）
- ・読解問題では文と文のつながりを読み取れていない答案が目につきます。
（接続語のはたらきや指示語に注意しましょう。）

対策

- ・指示語（この・あの・その など）の指している内容を問う問題が高確率で出題されます。
ふだんから、指示語が出てきたら何を指しているか考えるようにしましょう。
- ・文章の中で使われていることばの意味を問う問題もしばしば出題されます。
日ごろから文章の中で意味の分からないことばが出てきたら調べる習慣をつけましょう。
- ・必ず出題される記述問題は、何を聞かれているのかを確認して、文末を問題に合わせる練習をしておきましょう。

（例） …はなぜですか。 →～から。
…はどういうことですか。 →～こと。

2020 年度 中学入試 傾向と対策

算 数

《出題の構成と配点例》

1 基本の計算・一行問題

○12 問程度で構成されています。前半は小数や分数を含む基本的な計算問題、後半は還元算、比、速度、単位、濃度といった基本的な文章題を出題します。

2 図形に関する問題

○図形について、オーソドックスな角度、長さ、面積、体積を求める問題を出題します。基本的には一問一答型の問題を2～3 問程度出題します。

3 特殊算を含む文章題

○一般的な特殊算を2～3 問程度出題します。いずれも難易度はそこまで高くありませんが、問題文がやや長いのが特徴です。

4 応用問題

○長めの説明文、グラフなどが提示され、それに従って解いていく応用問題を出題します。ただ計算するのではなく、グラフの理解、長文読解や変数(常に変化していく値)の把握といった応用力を確かめます。3 問程度構成で、前半は比較的解きやすい内容になっています。

[配点] 100 点満点で、1問あたり4～5 点の配分になります。前半の計算問題も後半の文章題も配点は変わりません。

《全体的な傾向と対策 & 受験生へのメッセージ》

中学入学後に必要となる『数学力』の基盤ができているかをみることを主眼として出題していますので、全体を通して難問・奇問は出題していません。基本的な計算技術、比などの小学校で扱う各単元の基本事項を確実に解けるようにしましょう。特殊算についても、易しくはありませんが、一般的な市販の対策問題集で十分対応できるレベルですので、問題数をこなしていけば解けるはずです。応用問題も、最初の何問かはシンプルな問題になっているので、落ち着いて問題文を読みましょう。

また配点はほぼ均等にしてあり、応用問題の配点が高いことはありません。一問一問丁寧に解けば十分得点できるでしょう。

年度によっては作図の出題があります。コンパスを上手く扱えるように練習しましょう。定規、コンパスの扱いは中学数学においても必要なスキルとなります。

2020 年度中学入試 傾向と対策 社会科

2019 年度入試 出題内容と結果分析

〈地理〉40 点満点

- ・都道府県の位置と地形について
- ・グラフ、統計など資料の読み取り

〈歴史〉40 点満点

- ・特色ある人物、事件と時代の特徴
- ・古代から現代までの歴史の流れ

〈公民〉20 点満点

- ・おもなニュースを題材とした問題

〈受験生が苦手としているポイント〉

- 地理的分野：グラフ、統計の読みとり
- 歴史的分野：時代の並び替え、史料問題
- 公民的分野：三権（国会・内閣・裁判所）の関わり

基礎知識を土台とした思考力・判断力を問う問題が苦手

○2020 年度入試 入試で求められる学力像と出題内容の傾向・対策

基礎学力の理解・定着を問う問題 と **思考力・判断力などの応用力を問う問題** を出題

問題数と配点が変わります。40 分 50 点満点(地理 20 点 歴史 20 点 公民 10 点)

【1】基礎学力の理解・定着を問う問題

- 地理：日本の地形、都道府県の位置、日本の都市、基本的な資料の読み取り、(世界地理)話題となった国地域
- 歴史：歴史上の有名な人物・事件・年代や、時代の特徴
- 公民：日本国憲法、政治のしくみ、選挙、国内・国外の話題となったニュース

基本問題アドバイス～勉強のポイント～

- 【地理的分野】：①白地図を多用し、都道府県の位置や地形を書きこんでいく。
②新聞やテレビで取り上げられた地域・出来事に興味を持ち地図で場所を確認する。
- 【歴史的分野】：③歴史的に有名な人物・事件を漢字で書けるように、何度も書いて暗記する。
④時代の特徴と流れをつかむために、事件・人物を書きこんだ年表をつくる。
- 【公民的分野】：⑤憲法の三大原則や基本的人権を、前文や条文を見ながらまとめる。
⑥新聞やニュースで取り上げられた出来事を整理する。

【2】思考力・判断力などの応用力を問う問題

- 地理的分野：さまざまな地図やグラフ、統計資料の読み取り
- 歴史的分野：古代から現代までの歴史の流れ、資料(絵・写真など)と史料(法律や命令の文書など)の読みとり
- 公民的分野：日本の政治のしくみ(三権の役割とその関わり)

基本問題アドバイス～勉強のポイント～

- 【地理的分野】：①雨温図・県別生産グラフから、地域の特徴を比較し把握する。
②多種多様な地理の特徴を理解し、活用する。
- 【歴史的分野】：③農民史や外交史など、テーマごとに歴史の流れを理解する。
④歴史上重要な史料(資料)を理解し、暗記する。
- 【公民的分野】：⑤話題となった国内外のニュースを一覧表にまとめる。



受験生のみなさんへ

- ☆まずは基本をしっかりと身につけましょう！
- ☆勉強する際は、地図やグラフ・さまざまな資料に必ずふれましょう。

2020年度 中学入試理科の傾向と対策

傾向

昨年は各科目 8～10問 ずつの合計 100点 満点で、選択・記述・計算・グラフと単純なものから考えるものまで色々な問題を出題しました。

- 【物理】 てこ・ふりこ・運動・エネルギー・電流・磁石・ものの温まり方
→ 1回の試験に2分野ずつ出題
- 【化学】 ①水よう液→性質や反応を問う問題
②気体の発生→反応と性質を問う問題
③もののとけ方→表や図を見ながら性質を問う問題
- 【生物】 植物・動物のからだのしくみ・はたらき
- 【地学】 月の満ち欠け、天体の1日の動き、天気の変化、大地の変化、
流れる水のはたらき

対策

- ①教科書（4・5・6年）をよく読む。
- ②実験器具の名称や使い方も覚える。
- ③図やグラフのある問題演習も行う。



※今年度は各科目 6～7問 ずつの合計 50点 満点で、基礎・基本的事項を出題する。

- 【物理】 てことふりこは細かい計算力が必要
エネルギー・電気・熱などは論理的な考え方が重要
- 【化学】 基礎・基本的な問題に加えて、計算力と実験や結果の表からの類推力
実験から最終的に何が導き出されるかという分析力
- 【生物】 基本的な言葉をしっかり覚えておくこと
実験をよく理解しておくこと
- 【地学】 月の満ち欠けは、日頃から月のようす（月齢・時刻・位置）に注意
天気の変化は、グラフや表を読みとる分析力が必要

2020年度中学入試

英語



出題構成と配点例

1. 筆記試験 70点 (試験時間 30分)

英検4級～3級程度の基礎的な問題が中心

- ・ 単語、熟語、文法の知識を問う問題 (記述・選択式) 30～40点
- ・ 会話表現問題 (選択式) 10点程度
- ・ 日本文付き短文の語句整序 (並べかえ) 10点程度
- ・ 情報の読み取り問題 (選択式) 10点程度

2. 面接試験 30点 (5分程度)

ネイティブ教師による英語での面接 / 受験生自身に関する質問が中心

傾向

難易度「3級程度のレベルの問題を含む」の内容で、筆記試験の比重が多くなっています。

対策

筆記試験については、身の回りにあるものの名前を英語で書けるように練習しておきましょう。be動詞・一般動詞の使い方、過去形、未来形、進行形、助動詞などの基礎的な文法事項をしっかりと確認してください。不定詞、現在完了形、分詞、接続詞などの使い方にも慣れておきましょう。また、日常生活の基本的な表現を学び、使えるようにしておきましょう。並べかえ問題は前後の語句とのつながりや、選択肢の単語の品詞に注意して解く練習をすると良いでしょう。資料の読み取りは、習っていない単語があっても動揺せずに、「何を伝えるためのものなのか」に注目し、質問文と資料をよく読み比べて、必要な情報を探しましょう。30分の試験なので、時間配分にも気をつけましょう。

面接試験については、大きな声ではっきりと発音することが大切です。自分の名前や年齢、住んでいる場所などのほか、趣味、好きな食べ物やスポーツ、将来したいことなどについて質問されるので、英語で答えられるように練習しておきましょう。